

# 京都府地震被害想定調査委員会 第1回被害想定・リスクマネジメント部会議事概要

1 日 時 平成18年3月7日(火) 10:45~12:15

2 会 場 キャンパスプラザ京都 2階 第1会議室  
(京都市下京区西洞院通塩小路下ル)

3 出席者 別添委員名簿参照

## 4 議事要旨

### (1) 事務局説明

○資料に基づき、地震被害想定実施に係る考え方を事務局から説明

- ・実践的な防災対策を検討するための基礎資料の作成
- ・被害を低減させる施策策定のための基礎資料の作成  
(減災目標を設定するための基礎資料の作成)
- ・府民、市町村、社会基盤施設の管理者が利活用しやすい形での想定結果資料の作成
- ・社会基盤データのデータベース化

### (2) 各委員の意見

○ 防災対策は、未来に向け、住みやすく、安全な京都府を目指すことであろうと思われるが、これからの社会は人口が減少していく時代を迎える。この時代における防災対策として土地利用規制について、検討してはどうか。

減災目標を設定するために被害想定が必要であることは当然だが、逆に減災目標を検証するために、被害想定が必要な場合があるため、被害想定→リスクマネジメントという流れのみではなく、リスクマネジメント ←→ 被害想定というような相互関係をもてるようにすると良い。

○ 現在、国において災害時要援護者の一人一人の避難支援プランを市町村が策定するべしとの検討がなされている。

本委員会で策定予定である被害想定の結果を市町村が活用して、脆弱度が高い人がどういう地域に住んでいるか判断できるようなデータベース構築を行うべきである。

(市町村が住宅ポリゴンに1レイヤーとしてのせられるようなデータベース構築を行い、その手順を府が示せるような形にしておくこと)

○ 減災目標の一つとして、中越地震であった、中山間地の孤立をなくすことを掲げる場合、有用な被害想定を行うつもりか。

道路被害のランク付けやkmあたりの被害箇所数が算出できたところで、それが孤立地域を示していることになるのかどうか。

どこまで力点をおいているのか。

- どのような評価が可能であるのか、我々も悩んでいるところであって、今後先生方と御相談しながら検討を進めたい。

対策としては、別ルートを設定したり、ヘリポート用スペースを確保するなど地域、府、市町村によって選択できるような応急対策の検討まで広げて整理したい。

- 防災対策の検討を進める際に、25～30年後に起こる南海地震に対する備えと、それまでの間想定外に地震が起こった場合との区別がなされていない場合がある。30年後の対策を考える際には、30年後にも生きていくような対策が必要であり、その際には30年後の状況を十分考慮して対策などを考えて頂きたい。緊急対策の議論と30年後にも生きる対策の両面を考え、ウエイト付けしていくことを考えて頂きたい。

- 利活用という部分を考えて際には既存のデータ状況はどうか、データを統合することによってどのようになるのか、包括的に見ていくことが必要になる。被害想定手法もオープンにすることによって市町村がローカルで詳細な分析を行う際に重要な資料となる。

- 府が目指しているという内容は、予防、応急、復旧、復興の各段階における減災・リスクと言うが、委託業者は予防対策だけしか議論していない。事務局内で十分すりあわせをしておかないと、うまくいかない。

リスクマネジメントとは、概念は未来形のものであり、予防、応急、復旧、復興の中でどのようにリスクを分配するかの方針決定をすることであり、事務局内で十分すりあわせをしておく必要がある。

府の目標設定の考え方は間違っている。震度が小さい地震ならば、被害発生を抑止することができるかもしれないが、直下型地震において被害発生を抑止することはできない。

こういった場合には抑止し、こういった場合には被害が出ることを前提とした軽減策を考えるのか割り切りが必要であり、府の今の水準で対応できるものと今後30年間で重点的に整備すべきもの、それからはずれたものを応急、復旧、復興までの中で対応することを検討する必要がある。

「何を」「何に対して」「どこまで」抑止するか、この3つを決めておく必要がある。

データベースとは、維持管理されてはじめてデータベースと言えるものになるが、誰もわざわざ地震被害想定のためデータを提供してくれて、データベースの更新をしてくれるものではない。しかし、自らの業務のためにはデータを作成しているはずである。これからの行政の役割がデータベースの構築と更新にあるとするならば、日常業務で行われているデータベースから必要項目だけ抽出すれば、地震被害想定のためのデータベースも更新されるような仕組みを作る必要がある（自律的にデータが更新される体制）。

<参考>

社会基盤施設	私たち生活や産業の基盤となっている、道路や上下水道等ライフライン施設
ポリゴン	コンピュータグラフィックスで、形状を表現するとき使用する多角形。計算のしやすさから、ほとんどの場合に三角形が使われます。
レイヤー	グラフィックスソフト等で扱われる「シート」。コンピュータ上の地図で、さまざまなデータを別のシートに分けておけば目的に応じて任意の重ね合わせができる
南海地震	紀伊半島沖から四国沖の海底を震源とする巨大地震 過去の発生周期から見て今世紀前半にも発生が危惧されています。